県内最古の土師器

鶴巻前遺跡出土の土師器の中で、壷などに装飾を施されるものは、県内でこれまで確認されている最も古い時期とされる古墳時代前期の土師器（蔵王町大橋遺跡、仙台市戸の内遺跡出土）より古いと考えられています。

Ⅳ-2-②

須恵器

須恵器は５世紀になって、朝鮮半島から渡来人によって伝えられたもので、輪積みによっておおまかな形を作り、仕上げにろくろを用いて成形し、１，０００度以上の高温になる窯の中で焼き上げられた土器です。

高温で焼かれることで、従来のものに比べると、青灰色がかっており、はるかに硬くて丈夫なのが特徴です。また、ろくろを使用することにより、大量に同じ規格でつくることができるようにもなりました。

この土器は、窯で焼き上げられる焼き物の元祖とも言えるでしょう。

Ⅳ-2-③

埴輪

古墳の墳丘やその周りに立て並べた素焼きの土製品が、埴輪です。埴輪という名称は、８世紀のはじめにまとめられた『日本書紀』の中に、古墳上に埴輪を立てたという記事があることから付けられました。

埴輪は、古墳に並べられ、聖域を区画したり、埋葬のセレモニーを行う際に使われたと言われています。埴輪には、まるい筒の形をした円筒埴輪やラッパ型をした朝顔形埴輪、壺形埴輪、さらには家や鎧、人物などをかたどった形象埴輪があります。

これらからは、当時の社会状況や生活の様子をうかがい知ることができます。

Ⅳ-2-④

副葬品

古墳の埋葬部に葬られた人物と一緒におさめられた品物が、副葬品です。鏡・剣・首飾りなど葬られた支配者にふさわしい貴重品や、様々な農具や工具などもおさめられていることが多いようです。これらは、葬られた人の死後のくらしのことも考えて一緒に埋葬されたのかもしれません。

Ⅳ-2-⑤

各遺跡の出土遺物紹介

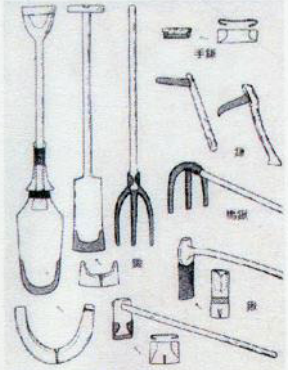
Ⅳ-2-⑥

鉄の刃をもつ農具

道具をつくるための刃物だけでなく、土を掘るための鋤・鍬の刃として、鉄の果たした役割は大きかったに違いありません。

魔法の道具～鉄～しかし裏を返せば「鉄が人を使役する時代」が到来したとも言えるのでしょう。

Ⅳ-3



鉄の刃をもつ農具いろいろ

Ⅳ-3

バラエティーに富んだ土器の種類

古墳時代の中ごろ以降、カマドが普及したことにより、煮炊き用の胴の長い甕や甑と呼ばれる蒸し器が使われるようになりました。

食器には現在のごはん茶碗のような土器もあらわれ、一人ひとりが自分の器を使って食事をするようになったようです。

Ⅳ-4